

国内の畜産物の需給動向

牛肉

5年5月の牛肉生産量、前年同月比2.1%増

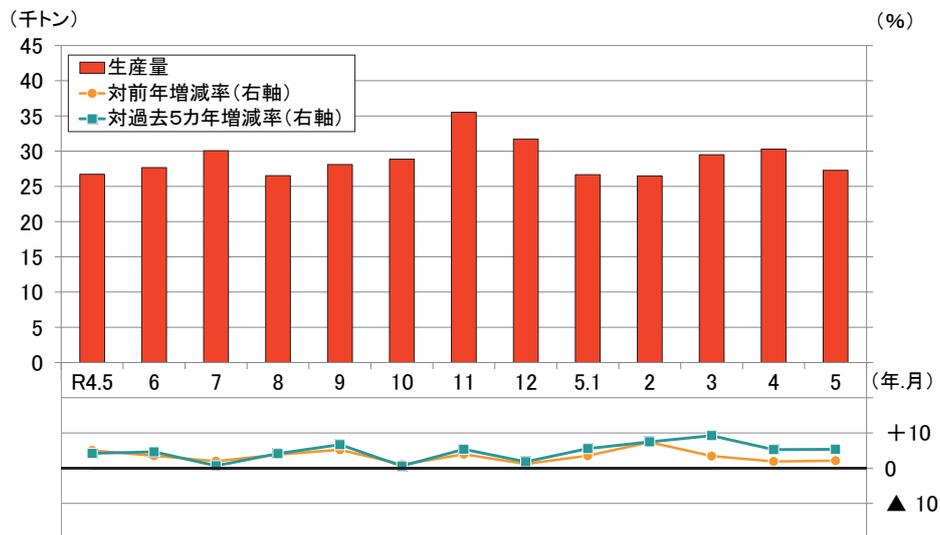
生産量

令和5年5月の牛肉生産量は、2万7295トン（前年同月比2.1%増）と前年同月をわずかに上回った（図1）。品種別では、和牛は1万2800トン（同3.2%増）とやや、交雑種は7520トン（同6.0%増）とかなりの

程度、いずれも前年同月を上回った一方、乳用種は6616トン（同2.3%減）と前年同月をわずかに下回った。

なお、過去5カ年の5月の平均生産量との比較では、5.4%増とやや上回る結果となった。

図1 牛肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：部分肉ベース。

輸入量

5月の輸入量は、冷蔵品は、需要が低迷する中、豪州産輸入量が少なく、米国産輸入量は現地価格の高騰もあり少なかったことから、1万6092トン（同21.5%減）と前

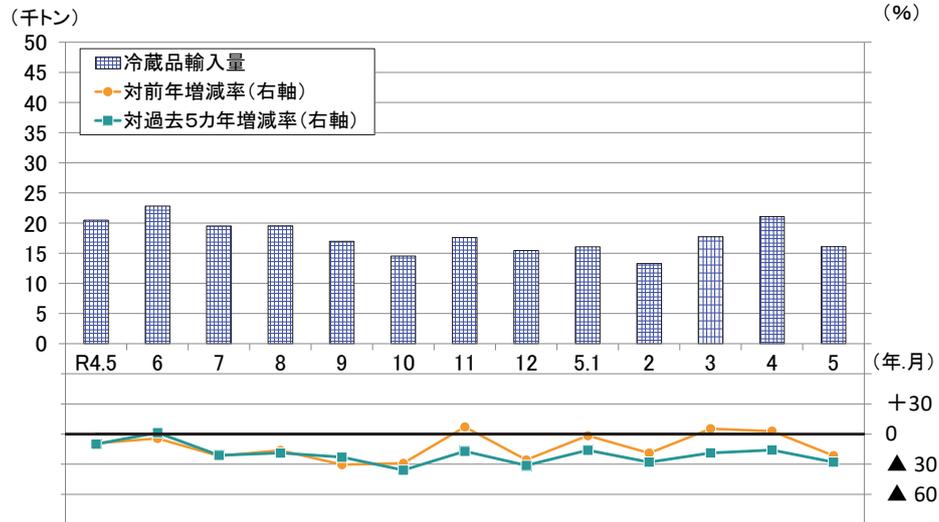
年同月を大幅に下回った（図2）。冷凍品は、前年同月の米国産輸入量が少なかったことに加え、生産量の増加から豪州産輸入量が多かったことなどから、3万291トン（同20.0%増）と前年同月を大幅に上回った（図3）。この結果、全体では4万6459トン

(同1.5%増)と前年同月をわずかに上回った。

なお、過去5カ年の5月の平均輸入量との

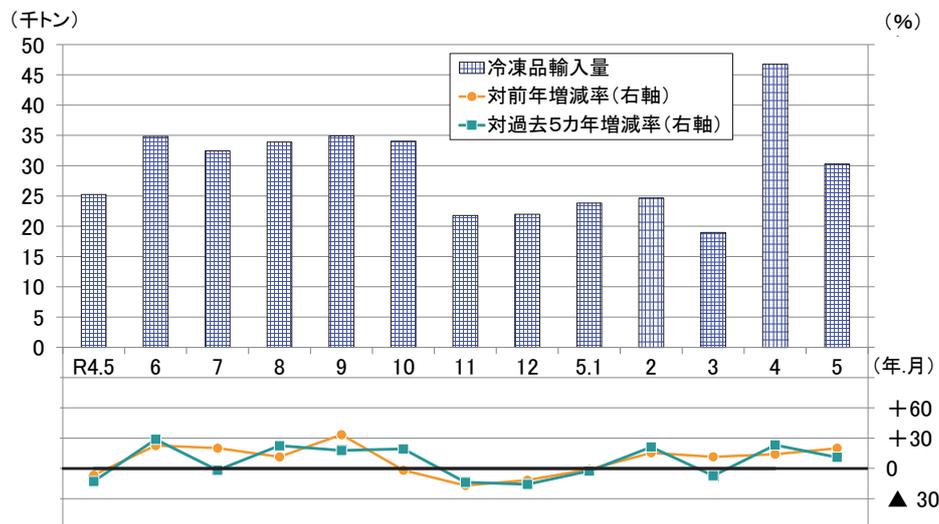
比較では、冷蔵品は27.9%減と大幅に下回った一方、冷凍品は11.1%増とかなり大きく上回る結果となった。

図2 冷蔵牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

図3 冷凍牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

家計消費量等

5月の牛肉の家計消費量(全国1人当たり)は179グラム(同6.0%減)と前年同月をか

りの程度下回った(総務省「家計調査」)。

なお、過去5カ年の5月の平均消費量との比較では、11.3%減とかなり大きく下回る結果となった。

5月は、新型コロナウイルス感染症（COVID－19）が5類へと移行し、COVID－19による行動制限がなくなり、ゴールデンウィーク後半の月初から店内飲食の好調が続いた（一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」）。外食産業全体の売上高は、帰省客、国内観光客、インバウンドともに消費が旺盛であったことなどから、前年同月比で11.8%増とかなり大きく上回った。このうち、食肉の取り扱いが多いとされる業態では、ハンバーガー店を含むファーストフードの洋風は、休日数が前年同月よりも1日少ないことや相次ぐ価格改定などにより利用客数にマイナスの影響があったものの、客単価の増加により売り上げは堅調を維持し、同8.9%増と前年同月をかなりの程度上回った。また、牛丼店を含むファーストフードの和風は、COVID－19の5類移行によるビルイン型店舗の店内飲食の回復などがあり、同14.0%増と前年同月をか

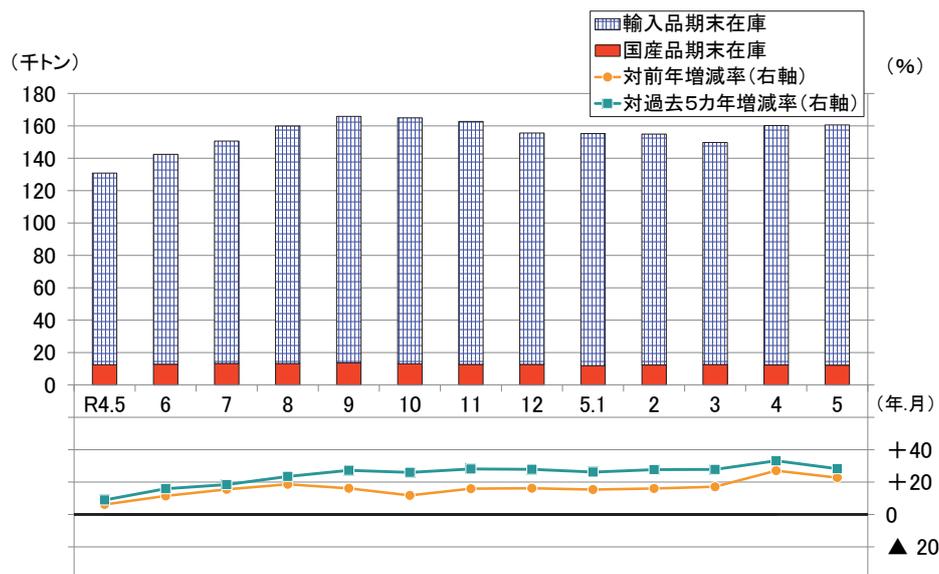
なり大きく上回った。ファミリーレストランの焼き肉は、人手不足により営業時間の短縮を余儀なくされているところもあるものの、月間の客足は好調であり、同10.6%増と前年同月をかなりの程度上回った。

推定期末在庫・推定出回り量

5月の推定期末在庫は、16万569トン（同22.7%増）と前年同月を大幅に上回った（図4）。前年同月比で21カ月連続の増加となった。このうち、輸入品は14万8317トン（同25.4%増）と前年同月を大幅に上回った。

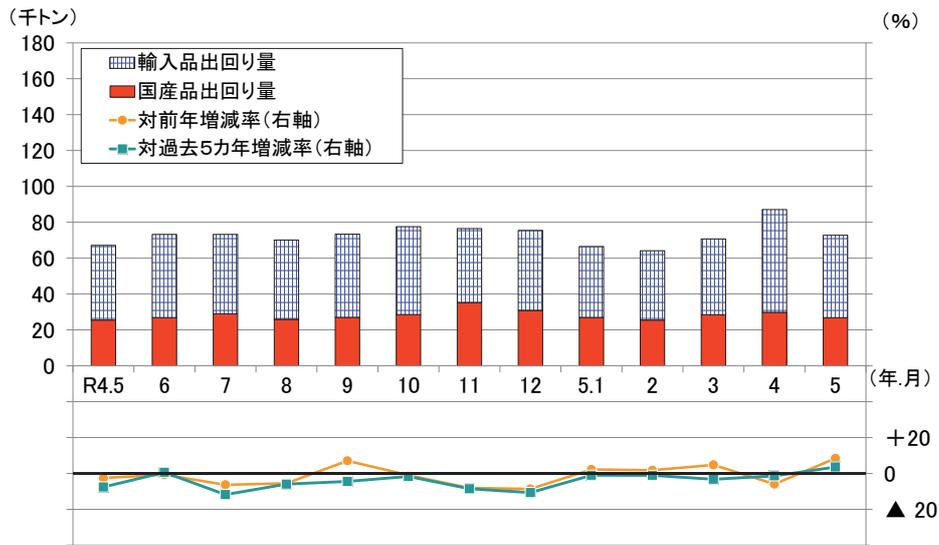
推定出回り量は、7万2778トン（同8.4%増）と前年同月をかなりの程度上回った（図5）。このうち、国産品は2万6851トン（同5.4%増）とやや、輸入品は4万5926トン（同10.3%増）とかなりの程度、いずれも前年同月を上回った。

図4 牛肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 牛肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 大内田 一弘)

豚 肉

5年5月の豚肉生産量、前年同月比5.0%増

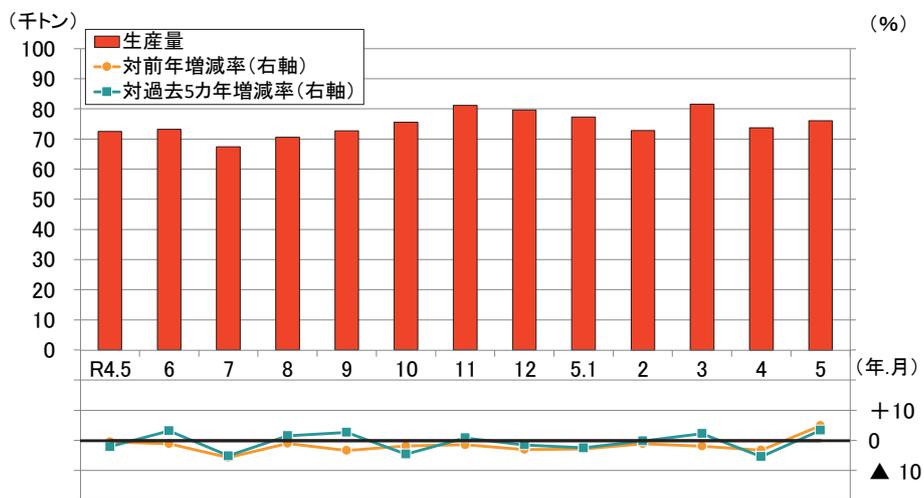
生産量

令和5年5月の豚肉生産量は、7万6116トン（前年同月比5.0%増）と前年同月を

やや上回った（図1）。

なお、過去5カ年の5月の平均生産量との比較では、3.4%増とやや上回る結果となった。

図1 豚肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：部分肉ベース。

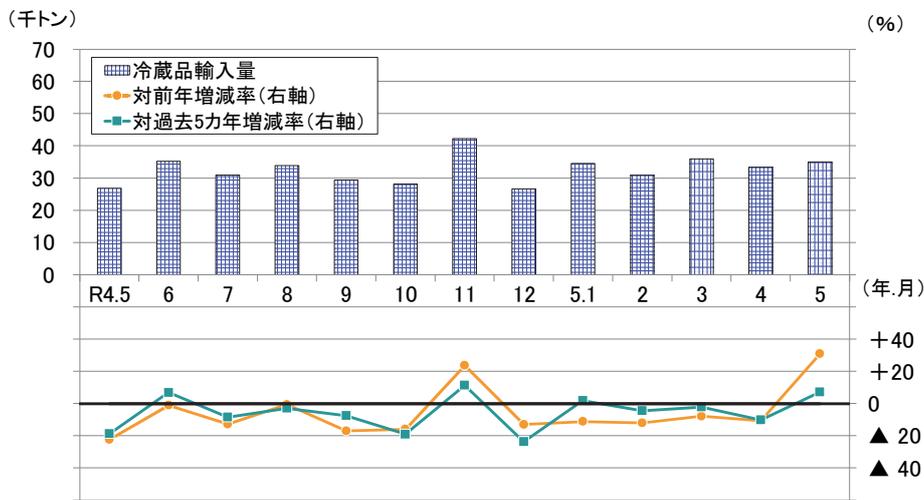
輸入量

5月の輸入量は、冷蔵品は、前年同月の輸入量がカナダ産の入船遅れにより少なかったことなどから、3万5054トン（同30.9%増）と前年同月を大幅に上回った（図2）。冷凍品は、スペイン産の安定的な供給や米国産の増加などにより、5万4667トン（同8.0%

増）と前年同月をかなりの程度上回った（図3）。この結果、全体では8万9726トン（同15.9%増）と前年同月をかなり大きく上回った。

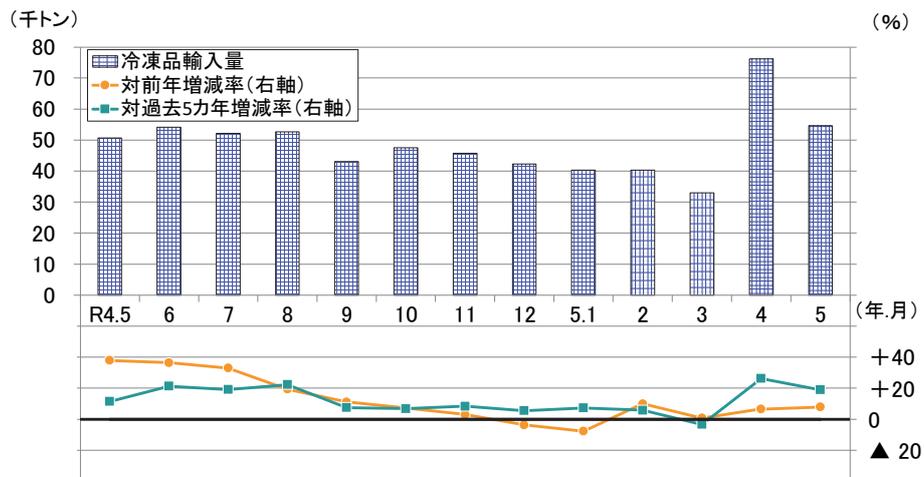
なお、過去5カ年の5月の平均輸入量との比較でも、冷蔵品は7.2%増とかなりの程度、冷凍品は19.0%増と大幅に、いずれも上回る結果となった。

図2 冷蔵豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

図3 冷凍豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

家計消費

5月の豚肉の家計消費量(全国1人当たり)は、639グラム(同0.5%増)と前年同月をわずかに上回った(総務省「家計調査」)。

なお、過去5カ年の5月の平均消費量との比較でも、1.0%増とわずかに上回る結果となった。

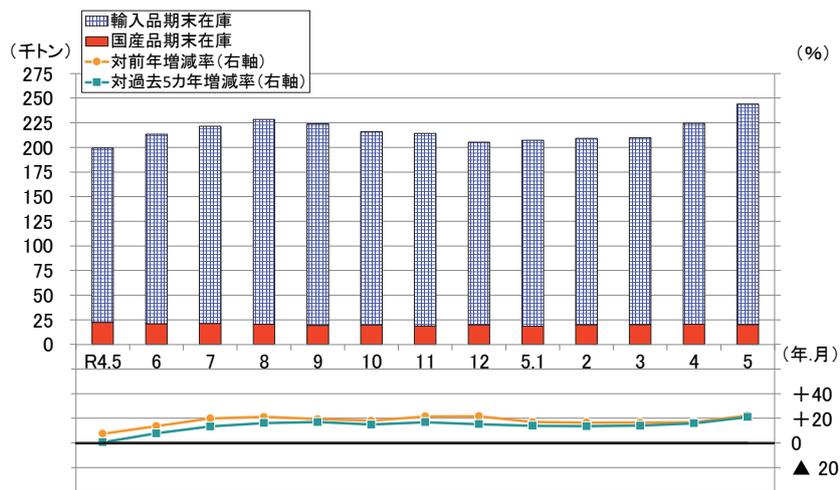
推定期末在庫・推定出回り量

5月の推定期末在庫は、24万4095トン

(同22.4%増)と前年同月を大幅に上回った(図4)。このうち、輸入品は、22万3902トン(同26.5%増)と前年同月を大幅に上回った。

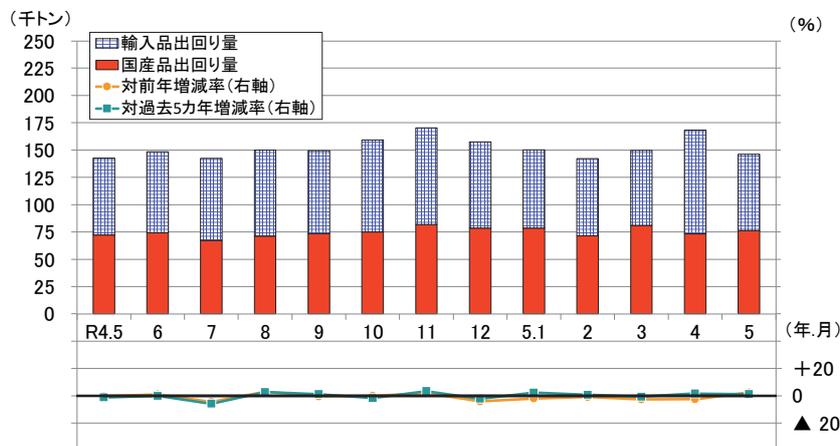
推定出回り量は14万6241トン(同2.5%増)と前年同月をわずかに上回った(図5)。このうち、国産品は7万6372トン(同5.8%増)と前年同月をやや上回った一方、輸入品は6万9869トン(同0.8%減)と前年同月をわずかに下回った。

図4 豚肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 豚肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 大西 未来)

鶏肉

5年5月の鶏肉生産量、前年同月比2.6%増

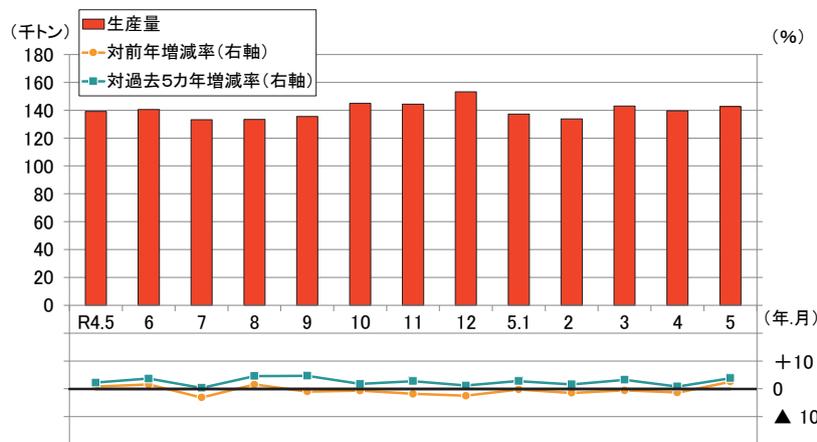
生産量

令和5年5月の鶏肉生産量は、14万2670トン（前年同月比2.6%増）と前年同月をわ

ずかに上回った（図1）。

なお、過去5カ年の5月の平均生産量との比較では、3.9%増とやや上回る結果となった。

図1 鶏肉生産量の推移



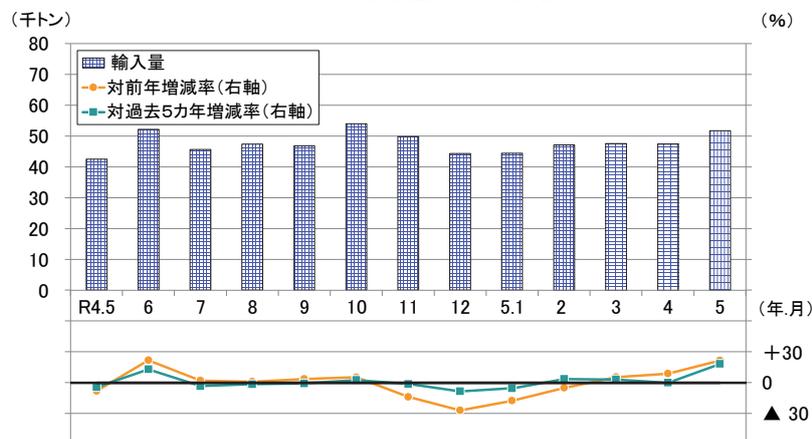
資料：農畜産業振興機構調べ
注1：骨付き肉ベース。
注2：成鶏肉を含む。

輸入量

5月の輸入量は、国産の高値を踏まえた輸入への引き合いや、価格がピーク時と比較して安価であったブラジル産の輸入量が多

かったことに加え、前年同月の輸入量がタイ国内におけるCOVID-19の影響により少なかったことなどから、5万1717トン（同21.7%増）と前年同月を大幅に上回った（図2）。

図2 鶏肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：鶏肉以外の家きん肉を含まない。

なお、過去5カ年の5月の平均輸入量との比較でも、18.3%増と大幅に上回る結果となった。

家計消費量

5月の鶏肉の家計消費量(全国1人当たり)は、512グラム(同1.0%増)と前年同月をわずかに上回った(総務省「家計調査」)。

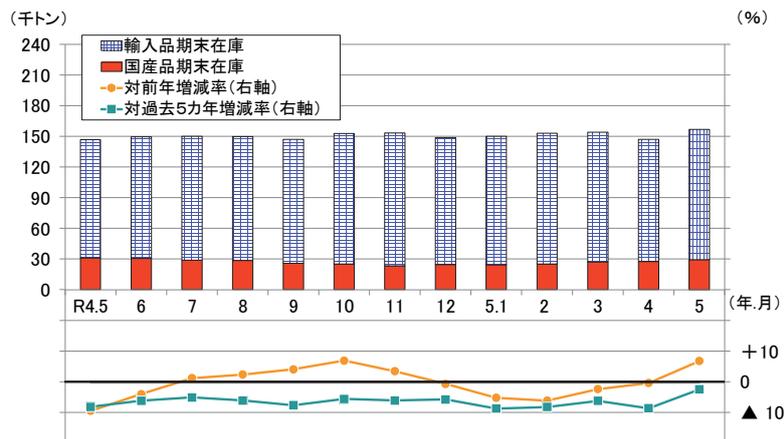
なお、過去5カ年の5月の平均消費量との比較では、0.2%増と同水準の結果となった。

推定期末在庫・推定出回り量

5月の推定期末在庫は、15万6845トン(同6.8%増)と前年同月をかなりの程度上回った(図3)。このうち、輸入品は12万7502トン(同10.2%増)と前年同月をかなりの程度上回った。

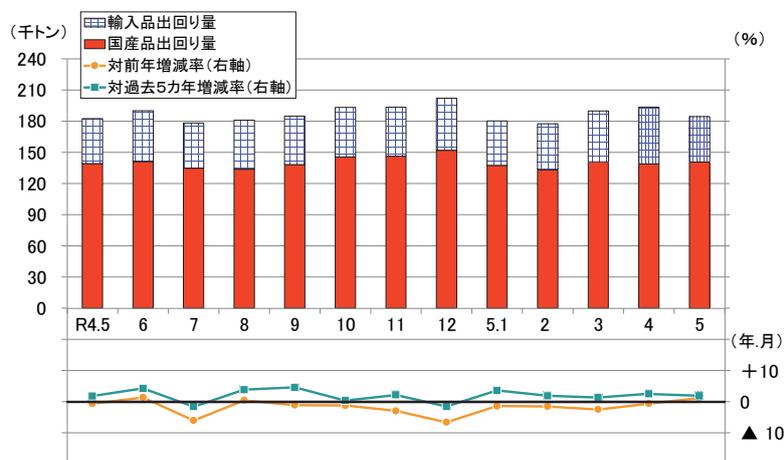
推定出回り量は、18万4592トン(同1.2%増)と前年同月をわずかに上回った(図4)。このうち、国産品は14万874トン(同1.1%増)、輸入品は4万3718トン(同1.5%増)と、ともに前年同月をわずかに上回った。

図3 鶏肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図4 鶏肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 田中 美宇)

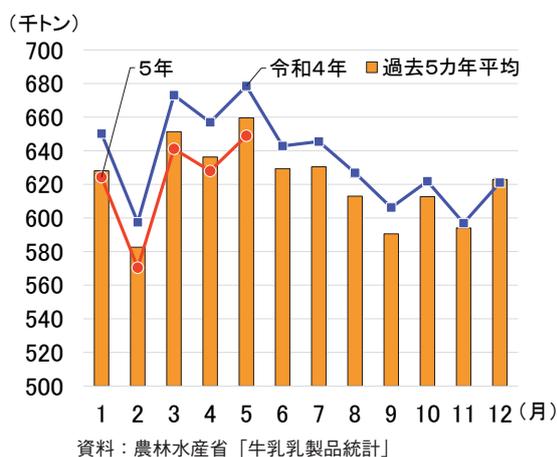
牛乳・乳製品

5月の生乳生産量 前年同月比4.4%減

5月の都府県の生乳生産量、前年同月比5.5%減

令和5年5月の生乳生産量は、64万8931トン（前年同月比4.4%減）と前年同月をやや下回り、10カ月連続で前年同月を下回った（図1）。地域別に見ると、北海道は36万6444トン（同3.4%減）、都府県は28万2487トン（同5.5%減）と、ともに前年同月をやや下回った。北海道は9カ月、都府県は10カ月連続でそれぞれ前年同月を下回った。これは生産抑制などによるものとみられる。

図1 生乳生産量の推移



5月の生乳処理量を用途別に見ると、牛乳等向けは、33万4318トン（同3.1%減）と前年同月をやや下回った。このうち、業務用向けについては、2万3931トン（同10.3%減）と前年同月をかなりの程度下回った。

乳製品向けは、31万575トン（同5.8%減）と前年同月をやや下回り、10カ月連続で前

年同月を下回った。これを品目別に見ると、クリーム向けは、5万8100トン（同4.0%減）と前年同月をやや下回り、チーズ向けは、3万9306トン（同6.1%減）と前年同月をかなりの程度下回った。脱脂粉乳・バター等向けは、16万6318トン（同7.3%減）と前年同月をかなりの程度下回った（農畜産業振興機構「交付対象事業者別の販売生乳数量等」）。

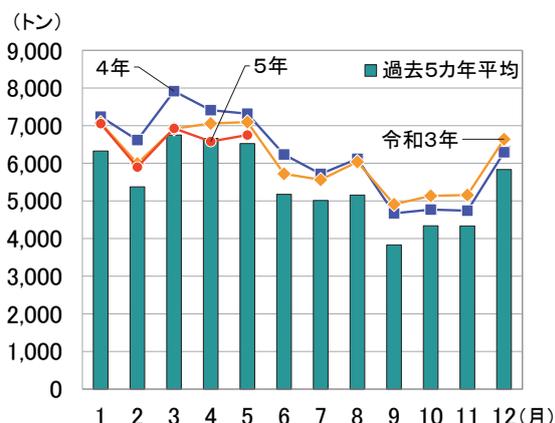
5月の牛乳等の生産量を見ると、飲用牛乳等のうち、牛乳は26万8427キロリットル（同2.5%減）と前年同月をわずかに下回り、成分調整牛乳は2万561キロリットル（同5.9%減）と前年同月をやや下回った。加工乳は、1万1782キロリットル（同13.1%増）と前年同月をかなり大きく上回った。

乳製品のうち、クリームは9466トン（同5.1%減）と前年同月をやや下回った。

5月のバター在庫量、前年同月比26.8%減

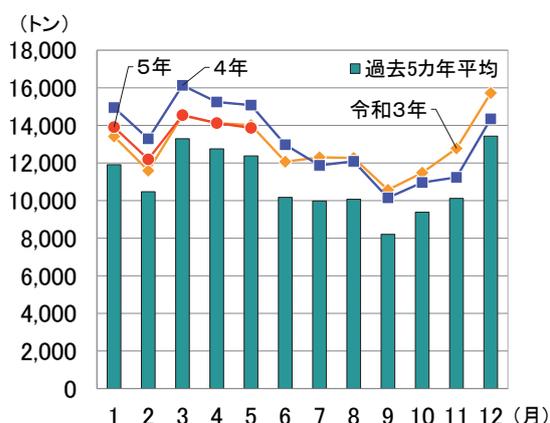
5月のバターの生産量は、6752トン（同7.7%減）と前年同月をかなりの程度下回り、9カ月連続で前年同月を下回った（図2）。一方で出回り量は6487トン（同2.3%増）と前年同月をわずかに上回った（農畜産業振興機構調べ）。5月末の在庫量は、3万371トン（同26.8%減）と前年同月を大幅に下回り、13カ月連続で前年同月を下回った（図3）。

図2 バターの生産量の推移



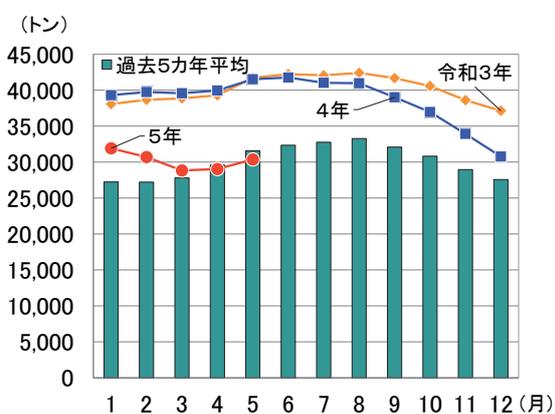
資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

図4 脱脂粉乳の生産量の推移



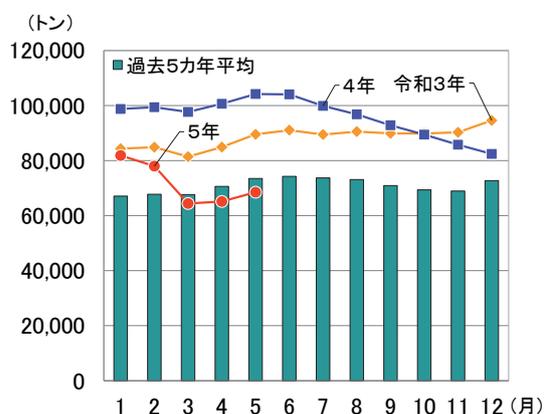
資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

図3 バターの在庫量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

図5 脱脂粉乳の在庫量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

5月の脱脂粉乳在庫量、前年同月比34.3%減

5月の脱脂粉乳の生産量は、1万3871トン（同8.0%減）と前年同月をかなりの程度下回る一方で（図4）、出回り量は1万509トン（同9.9%減）と前年同月をかなりの程度下回った（農畜産業振興機構調べ）。5月末の在庫量は、6万8502トン（同34.3%減）と8カ月連続で前年同月を下回ったが、2カ月連続で前月を上回った（図5）。

令和5年5月の脱脂粉乳の大口需要者向け価格、前年同月比10.4%増

令和5年6月26日に農林水産省が公表した「令和5年5月の乳製品の大口需要者向け価格の動向」によると、今年4月から乳製品向け乳価が1キログラム当たり10円上がったことなどから、大口需要者向け価格は、4月以降すべての品目で前年同月を上回った。これを品目別に見ると、バター（原料物）は1キログラム当たり1504円（前年同月比9.5%高）と2カ月連続で前年同月をかなりの程度上回った（図6）。脱脂粉乳は25キログラム当たり1万9411円（同10.4%高）

と2カ月連続で前年同月をかなりの程度上回った(図7)。全脂加糖練乳は24.5キログラム当たり1万1821円(同11.8%高)、脱脂加糖練乳は25.5キログラム当たり1万

1086円(同12.6%高)とかなり大きく、全粉乳は25キログラム当たり2万6231円(同9.2%高)とかなりの程度、前年同月上回った。

図6 バター(原料物)1キログラム当たりの大口需要者価格の推移

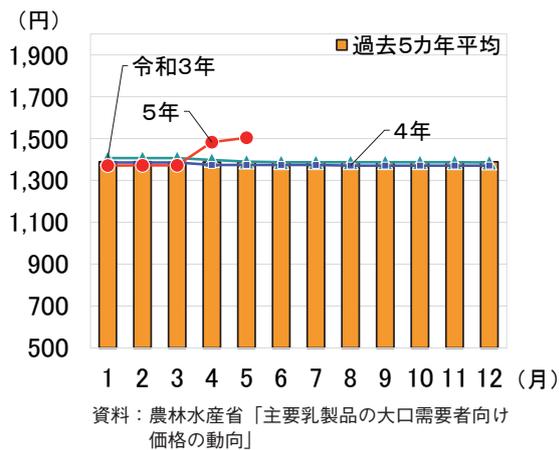
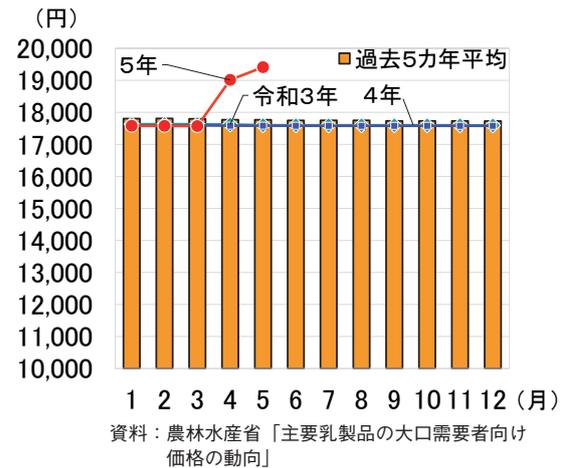


図7 脱脂粉乳25キログラム当たりの大口需要者価格の推移



(酪農乳業部 山下 侑真)

鶏卵

6月の鶏卵卸売価格は349円

令和5年6月の鶏卵卸売価格(東京、M玉基準値)は、1キログラム当たり349円(前年同月差136円高)となった(図)。

同価格は高病原性鳥インフルエンザ(以下「HPAI」という)の大規模発生による生産量の減少やコスト高の影響などにより、高値で推移しているが、発生農場における再導入が進んでいることや、例年夏季は気温の上昇とともに低需要期に入ることから、6月最終週には高止まりから下押しの動きを見せた。なお、6月20日に農林水産省は、国際獣疫事務局(WOAH)のウェブサイト、HPAI

の清浄化宣言が掲載されると発表した。

当月の日ごとの推移を見ると、26日以後は345円が続き、現在公表されている平成5年1月以降の相場で、最高値となった350円から90日ぶりに5円下回った。しかし、3~6月の前年同月差を見ると、3月は148円差、4月は139円差、5月は131円差と徐々に差が小さくなっていったが、6月は136円差と差が再び広がり、依然として高止まりの状況が続いている。

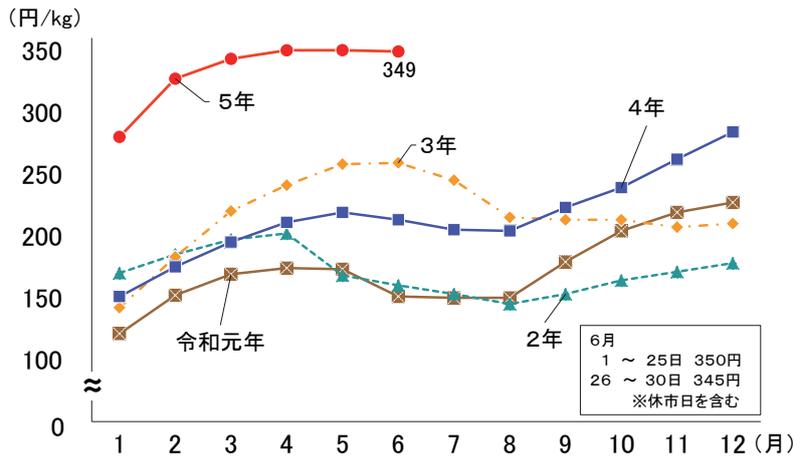
今後の供給量については、HPAI発生農家でのひなの導入再開まで約半年、発生前の飼

養規模に戻るまでは約1年かかるため、徐々に生産量が回復するものの、引き続き影響は続くとみられている。

需要面は、本格的な夏の旅行シーズンや休

暇による外食需要や観光需要などは回復基調にあると言われるが、供給が安定するまで引き続き不透明な状況が見込まれる。

図 鶏卵卸売価格（東京、M玉）の推移



資料：JA全農たまご株式会社「相場情報」
注：消費税を含まない。

(畜産振興部 生駒 千賀子)